

令和元年（平成31年度）活動計画

【Love49アクション】 厚生労働省後援

4月9日（子宮の日） 全国アクション全国**47都道府県**で街頭予防活動を細胞検査士約**1000人**で実施
ニュースレターなど啓発物を配布
「愛媛新聞」「河北新報」「にいがた経済新聞」「山口新聞」「長崎新聞」への掲載あり

愛媛新聞 ONLINE 2019年 4月22日(月) 金 新聞掲載

ニュース E4経済 スポーツ 健康スポーツ エンタメ 特集・連載 LIFE ENJOY 広場 サークル

県細胞検査士会など
子宮頸がん早期発見へ定期検診を 松山で街頭啓発

2019年4月15日（月）（愛媛新聞）

4月9日を「子宮の日」とし、子宮頸（けい）がんの予防を新える啓発活動が14日、松山市湊町5丁目の坊っちゃん広場周辺であり、愛媛県細胞検査士会などが買い物に訪れた女性にパンフレットを手渡し、定期検診の重要性を呼び掛けた。

同会によると、子宮頸がんは性交渉で感染するヒトパピローマウイルスの持続感染が原因。若年層の発症が増えてきているものの、20代の受診率は全体と比べて非常に低く、懸念視されている。

14日は、細胞検査士ら約20人が生理用品などが入った配布物を約1000セット配り、子宮頸がんについてのアンケートも行った。受け取った同市持田町2丁目の看護婦（45）は「受けた方が

河北新報 ONLINE NEWS 広告がGoogleにより

東北ニュース 全国・海外ニュース スポーツ 震災・防災

宮城のニュース

子宮頸がん検診の積極的な受診 細胞検査士ら呼び掛け

子宮頸（けい）がん予防に役立つ検診をPRしよう、宮城県細胞検査士会は6日、仙台市青葉区の藤崎ファーストタワー館前などで積極的な受診を呼び掛けた。

県内の医療機関に勤務する細胞検査士ら15人が、子宮頸がんの基礎知識や検診内容を記した冊子1000部を買い物客らに配った。

検査士会によると、各自治体は検診の無料クーポン券を配布して受診を促しているが、20代の受診率は5%前後と低い。

会長の三浦弘守（ひろしゅ）さん（54）は「20、30代で発症率が高くなりつつあ

にいがた経済新聞

2019 04.07 「子宮頸がん」を予防する街頭キャンペーン

20代、30代の女性に増えている「子宮頸がん」

子宮頸がん予防・啓発アクション「LOVE49（ラブシキウ）プロジェクト」が7日、新潟市西区の「アピタ新潟西店」と「済生会新潟第二病院」で開催された。主催は、新潟県細胞検査士会、新潟県臨床細胞学会、（公社）日本臨床細胞学会。共催は、細胞検査士会。後援は、厚生労働省、新潟県産婦人科医会、新潟県臨床検査技師会、新潟県。

4月9日の「子宮頸がんを予防する日（子宮の日）」を控え、全国各地で予防する街頭キャンペーンが行われ、このプロジェクトもその一環として行われた。がん細胞発見のために病院や検査機関で働く医療従事者が、「認定NPO法人『子宮頸がんを考える市民の会』」メンバーとして、無料のニュースレター「まもるここと」や啓発グッズを配布していた。

20代で増え始め、30代でピークを迎える「子宮頸がん」だが、早期に見えれば簡単な治療で治る病気。厚生労働省でも、20歳から2年に1回の子宮頸がん検診を推奨しているが、日本の子宮頸がん検診率は主要先進国と比較して最下位レベルにとどまっている（日本4.2・1%、アメリカ8.4・5%、韓国5.1・7%、日本医師会ホームページより）。

THE YAMAGUCHI SHIMBUN 1名あたり/版後通帳 [5/4] 立山荘 [4/21] ホテルフジタ福井 福井駅徒歩5分！ 官公庁・主要街並み...

山崎新聞 ふるさと創生へ 県民とともに

¥11,944～ 最新空室 5月4日の空室

¥2,685～ 最新空室 4月21日の空室

子宮頸がん検診ぜひ受診して 検査士らが下関で呼び掛け

2019年4月8日（月）掲載

「子宮の日」（9日）を前に、子宮頸（けい）がん検診の受診を呼び掛ける街頭活動が7日、下関市竹崎町の下関大丸前であった。県内の病院で働く細胞検査士や学生ら約30人が買い物客らに早期発見の重要性を訴えた。

県内の細胞検査士らでつくる県細胞検査士会（岡田宏之会長）の主催。同検査士はがん細胞を発見する専門職で、通り掛かった人にリーフレットやティッシュなどを詰めた啓発グッズ400セットを配り、「ぜひ定期的な検診の受診を」と声を掛けた。

同検査士会などによると、子宮頸がんの発症は20代から増え始め、30代でピークになるが、日本の検診率は約4割で、主要先進国と比較して最下位レベルにあるという。

岡田会長（40）は「子宮頸がんは若い世代の発症が多いが、受診率が低いことが課題。検査は痛みを伴わずにすぐに終わり、定期検診で早期発見できれば早期治療につながる。自分の体を守るとの思いで受診してほしい」と話した。

（新聞社WEBサイトより
記事の一部抜粋）

長崎新聞

子宮頸がん啓発 「受診を習慣に」 長崎でキャンペーン

2019/4/8 10:57 ©株式会社長崎新聞社

4月9日の「子宮頸がんを予防する日（子宮の日）」を控え、全国各地で予防する街頭キャンペーンが行われ、このプロジェクトもその一環として行われた。がん細胞発見のために病院や検査機関で働く医療従事者が、「認定NPO法人『子宮頸がんを考える市民の会』」メンバーとして、無料のニュースレター「まもるここと」や啓発グッズを配布していた。

20代で増え始め、30代でピークを迎える「子宮頸がん」だが、早期に見えれば簡単な治療で治る病気。厚生労働省でも、20歳から2年に1回の子宮頸がん検診を推奨しているが、日本の子宮頸がん検診率は主要先進国と比較して最下位レベルにとどまっている（日本4.2・1%、アメリカ8.4・5%、韓国5.1・7%、日本医師会ホームページより）。